

学校だより



ひかわ



校訓 洗心・奉仕・鍛錬

令和2年度
氷川中学校
令和3年1月25日
第12号文責 里永典隆

2021年、新年明けましておめでとうございます！

新年明けましておめでとうございます。2021年、令和3年が始まりました。年末年始はいかがだったでしょうか。新型コロナウイルス拡大により、外出自粛が呼びかけられ、自宅でのゆっくりとした正月だったのではないのでしょうか。新しい年が始まり今年1年はコロナ禍が少しでも縮小し、落ち着いた学校生活を送ることができることを祈るばかりです。しかし、感染縮小の兆しが見えず、緊急事態宣言が発令された地域もあり、熊本県のリスクレベルも高いままです。引き続き新しい生活様式と予防対策を進め、命と健康には留意していきたいものです。



始業式では「1年の計は元旦にあり」ということについて話をしました。新年にあたり、今年1年の目標を立て、その目標達成に向け、がんばってほしいと思います。また、3年生はいよいよ受験本番。右の写真は年明けの3年生の教室に描かれた作品です。すべての3年生が自分の進路希望を実現し、笑顔で卒業式を迎えることができると祈っています。今年も昨年同様によろしくお祈りします。



作品の出来栄えは？書き初め大会！

1月15日、新年はじめの行事として、書き初め大会を実施しました。講師として御船高校から書道がご専門の古閑雄介先生、4名の地域の方々にゲストティーチャーとして来校いただき、生徒へのご指導をいただきました。題材は1年生が「不言実行」、2年生が「新たな目標」、3年生が「無限の可能性」で、最初に練習を行い、その後清書に取り組みました。2時間を超える時間にもかかわらず集中して作品に取り組みました。作品は力作ばかり。新型コロナウイルスの影響で八代地域の書き初め展は中止となり、校内だけの審査となりましたが、生徒の集中力と作品の出来栄えに感心しました。



【御船高校の古閑雄介先生】

講師としてお願いした御船高校の古閑先生は、里永と植原先生が初任者として勤務した荒尾第二中学校の生徒で、里永は理科の授業を担当し、植原先生は3年間担任をされました。



1月18日は創立記念日！氷川中学校は70年を迎えました

1月18日は本校の創立記念日になります。本校は今年で創立70年を迎えました。当時の3年生の方々は85歳をお迎えになっているのではないのでしょうか。氷川中学校は昭和26年（1951年）1月18日に開校し、写真にありますように1月20日に落成式典が行われています。写真の様子から、学校のまわりには何もなくて、校舎も木造です。

これまで先輩方が創り上げてこられた70年間の伝統を引き継ぎ、新しい未来に向かってさらに進んでいきたいと考えています。これからの社会で活躍していく、氷川中プライドをもった品格ある氷川中生を育てていきます。



楽しい学校生活を送るために！！

「心のアンケート」結果集計より

例年12月に「『心のアンケート』～楽しい学校生活を送るために～」を実施しています。本年度も実施し、全校生徒が回答した結果の集計ができましたのでお知らせします。

1 「学校生活は楽しいですか」

現在の学校生活が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した生徒は全校生徒122人中、88.5%という状況でした。約9割の生徒の皆さんは「ほぼ楽しい」と回答していますが、1割の生徒が楽しくないと感じています。理由は学習面や人間関係など様々ですが、すべての生徒が楽しく学校生活を送ることができるように取り組んでいきたいと考えています。

2 「学校の授業はよくわかりますか」

授業について「よくわかる」「まあまあわかる」と回答した生徒は97人で79.5%という状況でした。小学校に比べると中学校の授業は内容的にも難しくなります。また、進路実現に向けて、十分な力を付けていくことも必要です。氷川町では「ひ・か・わ」型学習とICT機器の活用について積極的に進めています。これを受け、学校においても、分かる授業に向けての取組やタブレットを積極的に活用した授業づくりを進めています。また、熊本県では「熊本の学び」推進プランを策定し、授業改善を進めており、国においても4月より新しい学習指導要領が完全実施され、学ぶ側、学習者主体の授業づくりへの改善を図っていくこととなります。本校の学力面の力はどの学年も県平均を少し上回る状況です。さらに一人一人が分かる授業を進めていきたいと考えています。

3 「いじめられたことはありますか」

本年度になって、いじめられたことがあると回答した生徒は3人いました。内容は、「冷やかしかし、からかい」「仲間はずれにされた」「たたかれた、蹴られた」というものでした。すべて誰かに相談して、「現在は続いていない、解決した」と回答しています。学校は集団生活を送る場ですので、人間関係のトラブルや意見の食い違いが生じることは必ずあります。その中で、みんなで協力して解決していく力を身に付けていくことが大切です。そのことが社会に出たとき、社会人として生活していく時に大きな力となっていくと思います。困ったり悩んだりした時は一人で抱え込まず誰かに相談すること、困ったり悩んだりしている人を見たときには見て見ぬふりをすることなくしっかりと寄り添うこと、そのような力を身に付けた思いやりのある氷川中生に育てていきたいと思っています。

4 「自由に使える情報通信機器をもっていますか」

全校生徒122人中106人、86.7%の人がスマートフォン、携帯電話、パソコン、ゲーム機などの情報通信機器を所有しています。使用内容は高い順に①「音楽などのメディアプレーヤーとして(66.4%)」、②「ラインなどSNSの手段として(65.6%)」、③「ゲーム機として(56.6%)」の順でした。「1日の利用時間が3時間以上」という人も17人(13.9%)いました。「家庭での決まり事(ルール)」がない人も約半数いる状況でした。基本的な生活習慣の確立や家庭学習の時間確保に大きく影響しているのが情報通信機器の活用であると考えられます。学校でも機会ある毎に生活リズムの確立と情報通信機器の利用については話をしていきますので、ぜひご家庭でも親子で話し合う機会をつくっていただきたいと思っています。

5 「自分は誰かの役に立っていると思いますか」

自己有用感についての質問ですが、「役に立っている」「少しはある役に立っている」と回答した生徒は全校生徒122人中79人で、64.8%という状況でした。氷川中生は生徒会活動やボランティア活動、あいさつ運動など積極的に活動しており、とてもがんばっているという印象を持っていますが、「全く役に立っていない」と回答した生徒も1割程度おり気になるところです。小中連携を進めたり、体験活動を実施したりするなど中学生として自己有用感を感じることができる活動をこれからも積極的に実施していきます。

以上、12月に実施した「心のアンケート」の結果について、お知らせしたところです。学校では「心のアンケート」以外にも、各学期に教育相談期間を設定し、事前アンケートを実施して一人一人と相談する時間を設けています。3学期は2月1日から各学級で教育相談を実施していきます。また、忽那スクールカウンセラー、田中教育相談員も学校に配置されており、週に1回程度来校しています。各ご家庭でお子様と話をすることで気になることなどがございましたら、学校へ連絡していただき、相談していただければ幸いです。家庭と学校がしっかりと連携して、子供たちの健やかな成長に繋げていければと考えています。